



☆子供さんのことなら、どなたでも、気軽に相談してください

電話 30-1669 (時間 13:00~17:00)
メール kodomo-sien@yatsushiro.jp



前回の便りは、子供たちがままごと遊びで『ペット』になりたがる理由でした。理由の一つが、子供自身ではなく、子育てをする側の姿勢にあるという意見を紹介しました。

今回は、「子供たちがペットになりたいのは、自由気ままに生きて、ご飯が食べられ、愛されるから？」を考えます。川崎市でフリースペース『たまりば』の運営に関わってこられた、西野博之さんはどう感じているのか。著書『居場所のちから』の中から紹介します。

子育ての考え方や価値観も多様化がすすむ昨今、皆さんはどう感じられるでしょうか。

リスクを少なく「人並み」に育てたい?!

「見えないんです。とことん遊ばせるとか、やりたいことをやらせると言われても、私自身が思い切り遊んだことがない。だから、とことん遊ぶと子供はどうなるのか怖いんです。したくないことは何もしなくなっちゃうんじゃないか、とてもわがままな子になるんじゃないか。結果が見えないんです。確信がもてない以上、リスクの少ない路線をいくしかないでしょ。それでなくても、もっとこんなしつけをしてください、こんなこともできるように教えてください、という個々の要求が後を絶ちません。」

「小学校で困らないように、靴はきちんと揃えて下駄箱へ入れさせる。お手拭きをしまい忘れた子がいたら、遊んでいる最中でも呼び戻してしまわせる・・・。"あいいうえお"に、"ABC"、そういう最低限のしつけや知識が重要なんです。今のうちに身につけさせておいてあげなければ、あとで苦勞するんです。」



これらはある保育士さんの話です。しかし西野さんは、これらの声が

「保育」の場に限らず、そのまま母親の声とも重なると言うのです。基準があるものでもないのに、「人並みに」「無難に」「最低限にリスクを少なく」・・・。

みなさんは、こんな気持ちで子育てをしていませんか？

西野さんはこのような子育てに、次のように警鐘を鳴らしています。

リスクを少なくしようとする「子育て」が、子供をどんどん息苦しいところに追い込んでいくと気づかされることがよくある。今したいことを押さえつけられ、知識や技術を注入され続ける子供たちの心が、空しくざらついたとしても、かたちに見えないから意識されない。一方、かたちとして目に見える行いや態度、知識の量が評価され、問題にされる。

しつけがいらぬなんて言うつもりは毛頭ない。大事なものは「かたち」ではないということ。何か「できるようになること」でもないということ。

保育園時代に限ったことではないが、大切なことって、愛されているっていう実感だよ。



自分のままでいいんだ、なんて小さい子は考えないけど、なんだか人として話したり、遊んだり、けんかしたりの日々が楽しいよって感じられること。子供が求めているものは、ほんとうはこんなシンプルなことなのに、ねえ。

みなさんは、子供は何を求めていると感じておられるでしょうか？

相談員のつぶやき

我が家にも犬がいます。私も犬にはデレデレです。帰宅して、犬が迎えてくれると、愛おしく、同居の夫や義父には見せない表情で、声で応えています。

犬だけでなく、夫や義父も、きっと私の人生を豊かなものにしてほしいように・・・。私がシンプルに応えられないのはなぜ?!。子供に限らず誰もが求めていることなのに、ねえ。

